

道東太平洋海域で採集された深海性魚類

針生 勤*・吉田 英雄**・佐々木 潤**

On the Deep-sea Fishes from the Pacific Ocean
off the Eastern Hokkaido

Tsutomu Haryu*・Hideo Yoshida** and Jun Sasaki**

Abstract

This paper describes the deep-sea fishes occurred in the Pacific Ocean off the eastern Hokkaido from 1983 to 1989. These fishes had been obtained by fishing boats belonged to private corporations. The specimens contained 17 species divided among 17 genera in 16 families. Of these, Pacific knifefish *Rhinochimaera pacifica*, bighead smoothhead *Alepocephalus umbriceps*, *Paralepis atlantica atlantica* and black pygmy rockfish *Ectreposebastes imus* were very rarely found in the Pacific coast of the eastern Hokkaido. Mitsukurina's chimaera *Hydrolagus mitsukurii* and red barbour whale-fish *Barbourisia rufa* were newly recorded in the same waters. And also, *Dibranchius japonicus* was first record from waters around Hokkaido. Particularly, a specimen of *B. rufa* was sixth record from waters of the world.

The fish specimens have been kept in storage at the Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido.

はじめに

道東太平洋沖合は親潮の寒流と黒潮の暖流が混合するため高い生物生産が維持され、豊富な漁業資源に恵まれている海域である。当該海域において、底生有用生物の漁獲を目的としたエビ桁網、底曳網あるいは底刺網などによる漁業が行われているが、これらの網に漁業対象種ではない深海性の魚類が時折採集される。道立釧路水産試験場にこれらの魚類が持ち込まれ、これまで多数の標本が蓄積されてきた。本報告は今後の研究資料として保存するために整理した深海性魚類について、既往の知見を参考にして分布の特徴をまとめたものである。

本文に入るに先立ち、貴重な魚類標本を提供していただいた漁業者の方々に心よりお礼申し上げる。

深海性魚類

1983～1989年に道東太平洋沖で採れた深海性魚類の種類、採集地点および採集方法を表1と図1に示した。ただし、採集地点が正確にわからない標本もあり、それらについては当然のことながら図に記録できず、道東太平洋沖として表に掲げている。また、道東太平洋沖より南の北緯40度（東北沖）と33度（天皇海山沖）でそれぞれ漁獲された2標本も含めている。

本報告で取り上げた魚類はギンザメ科、テングギンザメ科、シギウナギ科、セキトリイワシ科、ソトオリイワ

シ科、ハダカエソ科、アカグツ科、チョウチンアンコウ科、シダアンコウ科、ナカムラギンメ科、アカクジラウオダマシ科、マトウダイ科、ムツ科、フサカサゴ科、ギンダラ科およびウラナイカジカ科など16科に分類され、17属17種に及んでいる。本報の体長とは標準体長（standard length、SL）のことである。また、図版のTLは全長（total length）を示している。

なお、これらの標本はKCM（Kushiro City Museum）の番号を付し、釧路市立博物館に収蔵・保管されている。

ギンザメ科 Chimaeridae

アカギンザメ *Hydrolagus mitsukurii* Dean

標本番号：KCM0290（全長693mm）（図版1－1）

採集年月日：1983年2月7日

採集場所：道東太平洋沖

本標本の正確な採集場所は不明である（表1）。

アカギンザメは吻が短く、臀鰭がないという特徴をもっている。また、尾鰭は糸状に非常に長くのびており、交接器は2叉する。

小林・池田（1962）は道南の尻岸内沖で採集された本種について、北海道からの初記録として報告している。北海道周辺に限って言えば、上野（1971）によるとアカギンザメは襟裳岬より西側の海域で認められているにすぎない。したがって、本個体は襟裳岬より東側の道東太平洋から初記録である。松原（1955）および益田ほか

* 釧路市立博物館 (Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido)

** 道立釧路水産試験場 (Kushiro Fisheries Experimental Station, Kushiro, Hokkaido)

表1. 1983~1989年の期間に道東太平洋海域で採集された深海性魚類

科 名	種 名	採集年月日	採 集 場 所	採集方法	採 集 者	標本番号
ギンザメ科 Chimaeridae	アカギンザメ <i>Hydrolagus mitsukurii</i>	1983. 2. 7	道東太平洋沖	—	—	KCM0290
テングギンザメ科 Rhinochimaeridae	テングギンザメ <i>Rhinochimaera pacifica</i>	1988. 7. 7	42°38' N、144°38' E (水深570m)	エビ桁網	第28昭盛丸 (池田兵一)	KCM0321
	テングギンザメ <i>Rhinochimaera pacifica</i>	1989. 9. 18	道東太平洋沖	〃	③ 観 音 丸	KCM0322
シギウナギ科 Nemichthyidae	シギウナギ <i>Nemichthys scolopaceus</i>	1985. 9. 13	大津沖南東約30マイル	〃	保 漁 丸	KCM0299
	シギウナギ <i>Nemichthys scolopaceus</i>	〃	〃	〃	〃	KCM0300
	シギウナギ <i>Nemichthys scolopaceus</i>	1988. 7. 15	エビ桁55海区 (水深400m)	〃	第28昭盛丸 (池田兵一)	KCM0325
セキトリイワシ科 Alepocephalidae	コンニャクイワシ <i>Alepocephalus umbriceps</i>	1983. 5. 10	道東太平洋沖	—	—	KCM0293
	コンニャクイワシ <i>Alepocephalus umbriceps</i>	1989. 7. 15	エビ桁69海区 (水深700m)	エビ桁網	第 8 観音丸 (阿部徳松)	KCM0337
ソトオリイワシ科 Neoscopelidae	ソトオリイワシ <i>Neoscopelus macrolepidotus</i>	1985. 11. 7	釧路沖南々西30マイル (水深350m)	〃	第 6 萬徳丸	KCM0303
	ソトオリイワシ <i>Neoscopelus macrolepidotus</i>	1988. 10. 20	42°37' N、144°43' E (水深680m)	底 曳 網	第51立昇丸 (伊藤漁業)	KCM0331
ハダカエソ科 Paralepididae	クサビウロコエソ <i>Paralepis atlantica atlantica</i>	1985. 11. 22	道東太平洋沖	エビ桁網		KCM0306
	クサビウロコエソ <i>Paralepis atlantica atlantica</i>	1986. 7. 17	40°00' N、145°30' E	イカ釣り	おやしお丸	KCM0313
アカグツ科 Ogcocephalidae	ソコグツ <i>Dibranchius japonicus</i>	1989. 2. 17	円山沖 (水深300m)	刺 網	正 宝 丸 (飯塚城英)	KCM0335
チョウチンアンコウ科 Himantolophidae	チョウチンアンコウ <i>Himantolophus groenlandicus</i>	1984. 11. 17	道東太平洋沖	—	第25美登丸	KCM0295
	チョウチンアンコウ <i>Himantolophus groenlandicus</i>	1988. 3. 7	42°14' N、143°44' E (水深450m)	底 曳 網	第65永昌丸 (東 館)	KCM0318
	チョウチンアンコウ <i>Himantolophus groenlandicus</i>	1988. 7. 7	42°38' N、144°38' E (水深570m)	エビ桁網	第28昭盛丸 (池田兵一)	KCM0323
シダアンコウ科 Gigantactinidae	シダアンコウ <i>Gigantactis vanhoeffeni</i>	1988. 5. 13	33°44' N、171°20' E (水深950-1,000m)	底 刺 網	第12恵久丸 (浜屋水産)	KCM0319
ナカムラギンメ科 Diretmidae	ナカムラギンメ <i>Diretmoides parini</i>	1988. 11. 13	広尾沖底曳132海区 (水深500-600m)	底 曳 網	第65永昌丸 (東 館)	KCM0332
アカクジラウオダマシ科 Barbourisiidae	アカクジラウオダマシ <i>Barbourisia rufa</i>	1988. 5. 27	エビ桁181海区 (水深560m)	エビ桁網	第 8 観音丸 (阿部徳松)	KCM0320
マトウダイ科 Zeidae	オオメマトウダイ <i>Alloctytus verrucosus</i>	1988. 11. 28	釧路沖南南東717マイル (水深220m)	底 刺 網	第16永領丸	KCM0333
ムツ科 Scombroidae	ムツ <i>Scombrops boops</i>	1984. 12. 14	道東太平洋沖	—	—	KCM0296
フサカサゴ科 Scorpaenidae	クロカサゴ <i>Ectreposebastes imus</i>	1988. 7. 9	釧路沖南西23マイル (水深350m)	エビ桁網	高 穂 丸 (佐賀幸一)	KCM0324
ギンダラ科 Anoplopomatidae	ギンダラ <i>Anoplopoma fimbria</i>	1986. 3. 13	道東太平洋沖	〃	昭 盛 丸	KCM0309
ウラナイカジカ科 Psychrolutidae	コブシカジカ <i>Malacocottus zonurus</i>	1983. 1. 18	〃	—	—	KCM0287
	コブシカジカ <i>Malacocottus zonurus</i>	〃	〃	—	—	KCM0288
	ニュードウカジカ <i>Psychrolutes phrictus</i>	1983. 2. 7	〃	—	—	KCM0289

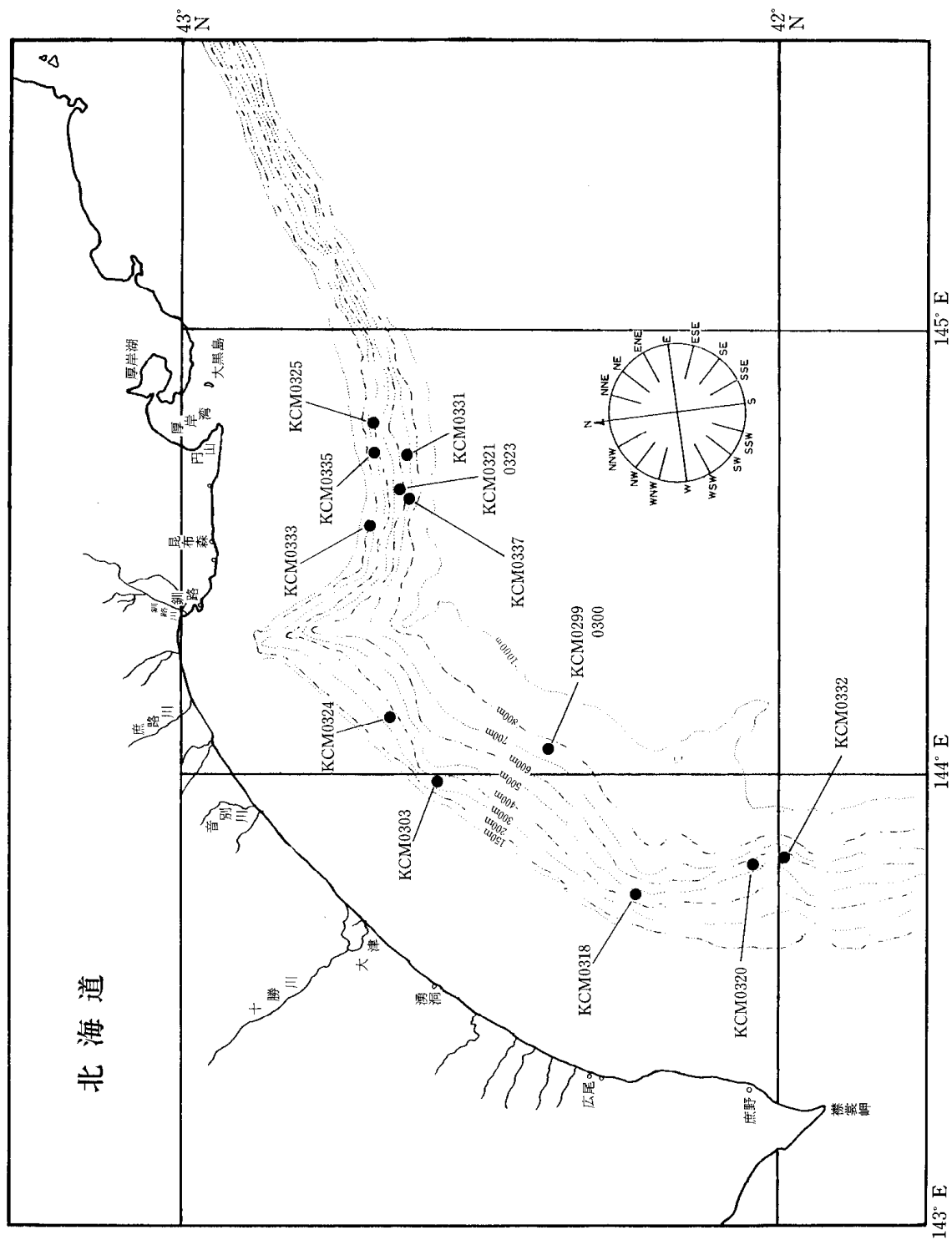


図1. 1983~1989年の期間に道東太平洋海域で採れた深海性魚類の採集地点。地点番号は魚類標本番号を示す。

(1984) は一般に相模灘から高知沖にかけての深海に分布しているが、北海道周辺の太平洋にも分布していることは明らかである。

テングギンザメ科 *Rhinochimaeridae*

テングギンザメ *Rhinochimaera pacifica* (Mitsukuri)

標本番号: KCM0321 (全長876mm) (図版1-2)

採集年月日: 1988年7月7日

採集場所: 42°38'N、144°38'E

標本番号: KCM0322 (全長862mm)

採集年月日: 1989年9月18日

採集場所: 道東太平洋沖

これらの標本は第28昭盛丸および③観音丸のエビ桁網によって1個体ずつ採集された(表1)。標本KCM0321は佐々木ほか(1989)が報告しているものと同一個体で、昆布森沖の大陸斜面の水深570mから、後述するチョウチンアンコウと共に得られた(図1)。KCM0321は雌で、その体重は1,180gであった。

天狗の鼻を連想させるほど、吻が極端に前方に突出しているのが大きな特徴である。また、雄の交接器は分叉しない。

テングギンザメは1966年1月10日に釧路沖の水深700mで採集されており、小林・桜井(1967)が北海道からの初記録として記載している。また、尻岡ほか(1983a)による形態についての詳しい報告もある。その後、採捕地点は不明であるが、1985年6月20日に道東太平洋海域で1個体漁獲されている(吉田ほか、1985)。本種は一般に日本周辺では北海道釧路以南の太平洋で知られており、世界的には東シナ海、ニュージーランド、ペルーなどに分布している(益田ほか、1984)。

シギウナギ科 *Nemichthyidae*

シギウナギ *Nemichthys scolopaceus* Richardson

標本番号: KCM0299 (全長667mm) (図版1-3)

KCM0300 (全長565mm)

採集年月日: 1985年9月13日

採集場所: 大津沖南東約30マイル

標本番号: KCM0325 (全長875mm)

採集年月日: 1988年7月15日

採集場所: エビ桁55海区 (42°40'~42°45'N~144°45'~144°50'E)

これらの標本は保漁丸および第28昭盛丸により大津沖と厚岸湾沖の大陸斜面から、エビ桁網で採捕された(図1、表1)。標本KCM0325は水深400mで採集されており、佐々木ほか(1989)が報告している個体と同一である。

シギウナギは体が非常に細長く、両顎も著しく伸長し

て上顎が上方に下顎が下方に湾曲するという特徴を持っている。

北海道周辺では、採集場所および日付は不明であるが、厚岸付近で得られている(Sato, 1937)。また、襟裳岬より西側の太平洋でも認められ(上野, 1971)、さらに十勝沖地震前の1968年5月11日に水深350mから採集された記録もある(桜井ほか, 1972)。本種は水深300~2000mの中層に生息し、日本周辺では厚岸湾から高知沖にかけての太平洋から知られている。また、太平洋、大西洋、インド洋の温帯および熱帯海域の深海に広く分布している(松原, 1955; 益田ほか, 1984)。

セキトリイワシ科 *Alepocephalidae*

コンニャクイワシ *Alepocephalus umbriceps* Jordan et Thompson

標本番号: KCM0293 (全長424mm)

採集年月日: 1983年5月10日

採集場所: 道東太平洋沖

標本番号: KCM0337 (全長556mm、体長482mm) (図版2-1)

採集年月日: 1989年7月15日

採集場所: エビ桁69海区 (42°35'~42°40'N、144°35'~144°40'E)

標本KCM0337は第8観音丸により昆布森沖の水深700mから、エビ桁網で漁獲された(図1、表1)。その体重は1,350gであった。標本KCM0293について、正確な採集場所および採集方法は不明である。

コンニャクイワシは頭が大きく、真黒色で、頭部には全く鱗がないのが特徴である。

上野(1971)の魚類目録には本種は含まれているが、北海道周辺での記録は確実なものではない。北海道周辺では、Amaoka and Abe (1977)が襟裳岬沖で採集された個体について、本邦海域から2例目の記録として詳細に報告している。本種は一般に水深500~1000mに生息し、北海道および東北地方の太平洋に分布している(尻岡ほか, 1983a; 益田ほか, 1984)。

ソトオリイワシ科 *Neoscopelidae*

ソトオリイワシ *Neoscopelus macrolepidotus* Johnson

標本番号: KCM0303 (体長201mm) (図版2-2)

採集年月日: 1985年11月7日

採集場所: 釧路沖南々西30マイル

標本番号: KCM0331 (体長238mm)

採集年月日: 1988年10月20日

採集場所: 42°37'N、144°43'E

標本KCM0303は第6萬徳丸のエビ桁網によって、釧路沖の水深350mから採集された(図1、表1)。また、

標本 KCM0331 は第 51 立昇丸により円山沖の水深 680m から、底曳網で漁獲された。その体重は 220g であった。これら 2 標本はそれぞれ吉田ほか (1985) と佐々木ほか (1989) が報告しているものと同一個体である。

最後の体側発光器が腔門の上方にあるのが本種の特徴である。

道東における初記録は 1970 年 5 月 30 日で、水深 420m から得られている (桜井ほか、1972)。しかし、正確な採集場所は不明である。この他に北海道周辺では、襟裳岬以西の太平洋でも知られている (上野、1971)。日中は深海の中層に生息し、夜間になると表層に浮上する。益田ほか (1984) は、本種は苫小牧沖より南の深海に生息するとしているが、前述したように道東でも確認されていることから、分布範囲はさらに道東をも含めた海域とする方が望ましい。世界的にはハワイ諸島、大オーストラリア湾および大西洋の暖海域などに広く分布している。

ハダカエソ科 *Paralepididae*

クサビウロコエソ *Paralepis atlantica atlantica* Krøyer

標本番号: KCM0306 (全長 494mm、体長 445mm) (図版 2-3)

採集年月日: 1985 年 11 月 22 日

採集場所: 道東太平洋沖

標本番号: KCM0313 (体長 481mm)

採集年月日: 1986 年 7 月 17 日

採集場所: 40°00' N、145°30' E

標本 KCM0306 はエビ桁網で漁獲されたが、正確な採集場所は不明である (表 1)。本個体は吉田ほか (1985) が報告したものと同一である。標本 KCM0313 は道東太平洋よりかなり南の東北沖において、おやしお丸のイカ釣りによって採集されたものである。

体はとれやすい鱗で覆われ、側線鱗はくさび形をしているのが特徴である。

丸山 (1958) は襟裳岬沖から得られた 2 個体について、日本周辺からの初記録として記載し、クサビウロコエソと命名した。その後、Ueno and Abe (1964) はスケトウダラの流網により、厚内沖の水深 120m から得られた全長 446mm (体長 415mm) の個体を 2 例目として報告した。*Magnisudis barysoma* は本種の異名である。本種は一般に地中海を除く全世界の海洋に広く生息する (尼岡ほか、1983a; 益田ほか、1984)。

アカグツ科 *Ogcocephalidae*

ソコグツ *Dibranchius japonicus* Amaoka et Toyoshima

標本番号: KCM0335 (全長 129mm、体長 104mm) (図版 3-1)

採集年月日: 1989 年 2 月 17 日

採集場所: 円山沖

本標本は正宝丸のスケトウダラ刺網により、円山沖の水深 300m から漁獲された (表 1、図 1)。

本種は円形の体板をもつこと、体の全表面が小棘で覆われること、体と各鰭は黒褐色又は黒色などの特徴をもっている。

ソコグツは Amaoka and Toyoshima (1981) によって新種として報告されたものである。報告の中の査定に用いられた個体は東北沖、三宅島近海および潮ノ岬沖の水深 620~1,270m から得られたものであり、北海道周辺からはこれまで採集されていなかった。従って、本報告のソコグツは道東太平洋海域はもちろんのこと北海道周辺からの初記録である。

チョウチンアンコウ科 *Himantolophidae*

チョウチンアンコウ *Himantolophus groenlandicus*

Reinhardt

標本番号: KCM0295 (全長 525mm、体長 430mm) (図版 3-2)

採集年月日: 1984 年 11 月 17 日

採集場所: 道東太平洋沖

標本番号: KCM0318 (全長 380mm)

採集年月日: 1988 年 3 月 7 日

採集場所: 42°14' N、143°44' E

標本番号: KCM0323 (全長 264mm、体長 225mm)

採集年月日: 1988 年 7 月 7 日

採集場所: 42°38' N、144°38' E

標本 KCM0295 は第 25 美登丸によって採捕されたが、正確な場所は不明である。標本 KCM0318 は第 65 永昌丸の底曳網により、広尾沖の水深 450m から採集された (表 1、図 1)。また、標本 KCM0323 は第 28 昭盛丸のエビ桁網によって、昆布森沖の水深 570m から、前述したテングギンザメとともに漁獲された。本標本は佐々木ほか (1989) が報告したものと同一個体で、体重は 1,310g であった。

雌では球形に近く、30~50 個の棘のある骨板を持っている。また、頭上の誘因突起は体長の 1/2 であるのが特徴。雄は雌に寄生せず、その体長は 4 cm 程度にしかない。

本種は一般に、太平洋と大西洋に広く分布するが、日本周辺では北海道から相模湾および下田港沖にかけて知られている (尼岡ほか、1983b; 益田ほか、1984)。

シダアンコウ科 *Gigantactinidae*

シダアンコウ *Gigantactis vanhoeffeni* Brauer

標本番号: KCM0319 (全長 460mm、体長 355mm)

(図版 4-1)

採集年月日：1988年 5月13日

採集場所：33°44'N、171°20' E

本標本は天皇海山沖において、第12恵久丸の底刺網によって水深950~1,000mの深所から採集された(表1、図1)。採集時の表面水温は17.8°Cであった。本個体は佐々木ほか(1989)が報告したものと同一である。

尼岡ほか(1983a)によると、本種は体が微小な棘に覆われ、突出した吻端から扁平な誘引突起が長くのびている。誘引突起の長さは体長の約83%にも達する。丸山(1970)によると、本種の和名の「シダ」は最初に日本から採集した志田氏に因んで名付けられた。

本種は一般に北緯63度から南緯15度の間の世界の海域(水深300~5,300m)に分布しているが、日本周辺では東北地方以南の太平洋側で知られている(尼岡ほか、1983a; 益田ほか、1984)。

ナカムラギンメ科 Diretmidae

ナカムラギンメ *Diretmoides parini* Post et Quero

標本番号：KCM0332 (全長315mm、体長258mm) (図版 4-2)

採集年月日：1988年11月13日

採集場所：広尾沖底曳132海区 (42°00'~42°05' N、143°40'~143°50' E)

本標本は第65永昌丸の底曳網によって、広尾沖の水深500~600mから採集された(表1、図1)。体重は639gであった。

ナカムラギンメは体に側線がなく、鰭膜の基部に1開口部を持つのが特徴である。

本種は一般に太平洋、インド洋および大西洋など世界中の深海に分布しているが、日本では北海道・東北の太平洋から知られている(上野、1971; 尼岡ほか、1983a; 益田ほか、1984)。

アカクジラウオダマシ科 Barbourisiidae

アカクジラウオダマシ *Barbourisia rufa* Parr

標本番号：KCM0320 (体長313mm) (図版 4-3)

採集年月日：1988年 5月27日

採集場所：エビ桁181海区 (42°00'~42°05' N、143°45'~143°50' E)

本標本は第8観音丸のエビ桁網によって、広尾沖の水深560mから得られた(表1、図1)。本個体は佐々木ほか(1989)が報告したものと同一標本である。

アカクジラウオダマシは体と各鰭が一様に赤橙色で、無数の小さな棘で覆われている。口が大きく、眼の後方まで裂けているのが特徴。

本種は極めて珍しく、世界からこれまで、5個体が報

告されているにすぎない。すなわち、一例目がメキシコ湾(Parr、1945)、2例目がマダガスカル島沖(Rofen、1959)、3例目が千島列島沖(Abe and Maruyama、1963)、4例目が北海道日高地方の三石沖(Ueno and Abe、1966a)で、5例目が東北地方の太平洋沖(尼岡ほか、1983a・b)である。従って、今回の採集記録がおそらく6例目と考えられ、たいへん貴重な標本である。

マトウダイ科 Zeidae

オオメマトウダイ *Allocyttus verrucosus* (Gilchrist)

標本番号：KCM0333 (全長327mm、体長282mm) (図版 5-1)

採集年月日：1988年11月28日

採集場所：釧路沖南南東7°17マイル

本標本は第16永領丸のカレイ底刺網によって、釧路沖の水深220mから採捕された。本個体は佐々木ほか(1989)の報告と同一のものである。

オオメマトウダイは体がほとんど菱形をしており、眼が著しく大きいのが特徴である。また、鰓孔と各鰭が黒い。

尼岡ほか(1983a・b)によると、日本周辺では釧路沖と東北沖で記録されているにすぎない。また、世界的にはブリティッシュコロンビア沖、南アフリカ沖およびオーストラリア沖などで知られている。

ムツ科 Scombridae

ムツ *Scombrops boops* (Houttuyn)

標本番号：KCM0296 (全長460mm、体長370mm) (図版 5-2)

採集年月日：1984年12月14日

採集場所：道東太平洋沖

本標本は1984年に得られたが、採集場所や方法についての正確な資料がない(表1)。

ムツは背鰭が2基で、尾鰭が深く二又する(尼岡ほか、1983b)。また、体は円鱗で覆われているのが特徴。

北海道周辺ではオホーツク海側を除く日本海側および太平洋側で知られている(上野、1971)。益田ほか(1984)によると、一般的には北海道より南に分布し、東シナ海からも知られている。若魚は沿岸の浅海にいますが、成長するにつれて深所に移動し、成魚は水深200~700mの岩礁域に生息する。

フサカサゴ科 Scorpaenidae

クロカサゴ *Ectreposebastes imus* Garman

標本番号：KCM0324 (全長251mm、体長212mm) (図版 5-3)

採集年月日：1988年 7月 9日

採集場所：釧路沖南西23マイル

本標本は釧路沖の南西海域の水深350mから、高穂丸のエビ桁網によって採集された(表1、図1)。本個体は佐々木ほか(1989)が報告したものと同一である。計数形質は背鰭が12棘10軟条、臀鰭が3棘6軟条、胸鰭が19軟条、腹鰭が1棘5軟条および側線孔数が30個であった。また、体高は72mmであった。

クロカサゴは頭や口が大きく、前鰓蓋骨に大きい棘があること、体が強く側扁し、側線がみぞ状になっていることなどの特徴をもっている(尼岡ほか、1983a・b)。

尼岡ほか(1983a)および益田ほか(1984)によると、本種は日本周辺では襟裳岬より南の太平洋から知られ、世界的には中部太平洋および中部大西洋の水深150～2,000mに分布している。

ギンダラ科 Anoplopomatidae

ギンダラ *Anoplopoma fimbria* (Pallas)

標本番号: KCM0309 (全長344mm、体長302mm) (図版6-1)

採集年月日: 1986年3月13日

採集場所: 道東太平洋沖

本標本は昭盛丸のエビ桁網によって採捕された(表1)。しかし、正確な採集位置は不明。

ギンダラは体が細長く、背鰭は2基であること、第2背鰭と臀鰭はほぼ同形同大であることなどが特徴である。和名からタラの仲間と間違われやすいが、分類上はアイナメ類に近い種類である。尾身・阿部(1969)によると、形が似ていたせいか北洋で獲れたギンダラを、ある大手水産会社が「北洋ムツ」と言う名で売り出したそうである。本種の地方名であるホクヨウムツはこれに由来している。

本種は道東太平洋沖で漁獲される機会はあまり多くなく、釧路沖や襟裳岬沖(松原、1955)で得られているが、その他の海域では噴火湾の湾内(疋田、1950)や噴火湾に面している砂原沖(Ueno and Abe, 1966b)などで採集された記録がある。また、疋田(1981)によると、道東の羅臼沖では刺網や延縄で漁獲されている。ギンダラは一般に北海道からベーリング海をへて南カリフォルニアまで分布している(岡田・小林、1968; 尼岡ほか、1983b; 益田ほか、1984)。

ウラナイカジカ科 Psychrolutidae

コブシカジカ *Malacocottus zonurus* Bean

標本番号: KCM0287 (全長168mm、体長136mm)

KCM0288 (全長172mm、体長137mm) (図版6-2)

採集年月日: 1983年1月18日

採集場所: 道東太平洋沖

これら2標本の正確な採集位置および採集方法については不明である(表1)。

コブシカジカは体が太短く、背鰭の起部付近で高く盛りあがること、後頭部に1対のコブ状の隆起物があり、各鰭の縁辺が白いことなどが特徴である(尼岡ほか、1983a・b)。セツパリカジカ *M. gibber* によく似ているが、前鰓蓋骨に外方へ突き出る強い棘があることで区別できる。

本種は一般的に日本周辺では東北沖の太平洋および日本海の北部海域で知られている。また、オホーツク海やベーリング海などの深所にも分布している(松原、1955; 尼岡ほか、1983a)。

ニュウドウカジカ *Psychrolutes phrictus* Stein et Bond
標本番号: KCM0289 (全長440mm、体長362mm) (図版6-3)

採集年月日: 1983年2月7日

採集場所: 道東太平洋沖

本標本は道東沖から得られているが、前述のコブシカジカと同様正確な採集位置および採集方法については不明である。

ニュウドウカジカは体がオタマジャクシ形で、頭が大きく、皮膚がぶよぶよしている。また、背鰭は1基で、棘条部と軟条部は連続していることなどの特徴を持っている。

本種は水深800～2,800mの深海から記録されており、日本周辺では東北沖の太平洋およびオホーツク海の南西部などから報告されている。また、その他の海域では東部ベーリング海や東部北太平洋から知られている(尼岡ほか、1983a)。

おわりに

1983年から1989年にわたり道立釧路水産試験場に蓄積された魚類標本のうち、道東太平洋海域で採集された暖海性魚類については針生ほか(1990)が既に報告したとおりである。今回は16科17種の深海性魚類を取り上げ、出現域などを明らかにした。ただし、天皇海山で採捕されたシダアンコウ科のシダアンコウ *G. vanhoeffeni* を含めている。また、ハダカエソ科のクサビウロコエソ *P. atlantica atlantica* は東北沖から得られているが、道東沖からも採集されている。従って、道東太平洋海域から得られている実際の種類は15科16種である。

これらの中でギンザメ科のアカギンザメ *H. mitsukurii*、テングギンザメ科のテングギンザメ *R. pacifica*、セキトリイワシ科のコンニャクイワシ *A. umbriceps*、ハダカエソ科のクサビウロコエソ、アカグツ科のソコグツ *D.*

japonicus、アカクジラウオダマシ科のアカクジラウオダマシ *B. rufa* およびフサカサゴ科のクロカサゴ *E. imus* などは道東太平洋海域からまれに採集されるにすぎない稀種である。

特に、アカギンザメとアカクジラウオダマシは道東の太平洋岸から初記録であり、ソコグツは北海道周辺を含めた海域から初めて得られた種類である。さらに、特筆すべきことは前述のアカクジラウオダマシという深海魚である。本種は極めて珍しく、北海道の三石沖に次いで2例目であるが、世界的にみても数個体が報告されているにすぎない。おそらく、今回の標本が世界から得られた6例目の個体と思われる。今後、これらの稀種について、詳細な記載をしていく必要がある。

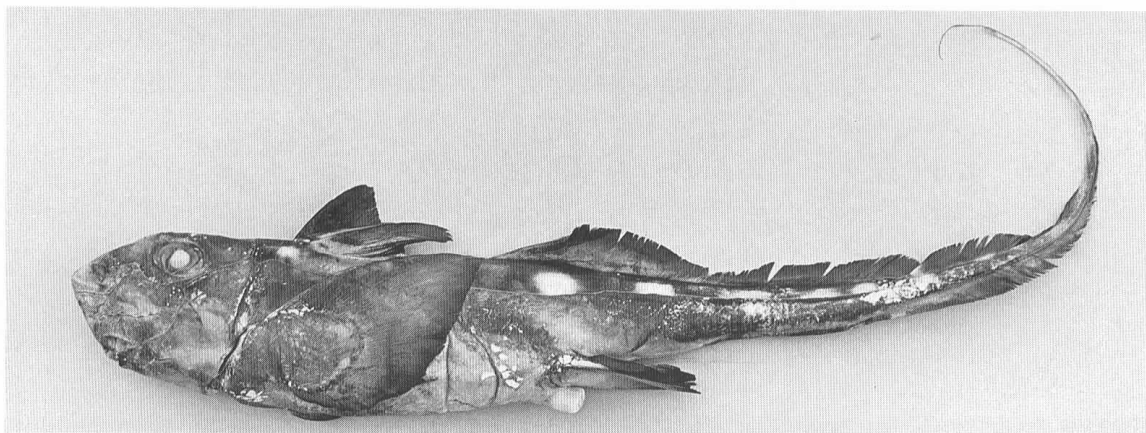
引用文献

- Abe, T. and K. Maruyama (1963). A new record of *Barbourisia rufa* Parr from off the Kurile Islands. Japan. J. Ichthyol., 10(2-6) : 49-50.
- Amaoka, K. and K. Abe (1977). Description of a new lepocephalid fish, *Bajacalifornia erimoensis*, and a second record of *Alepocephalus umbriceps* off Japan. Japan. J. Ichthyol., 23(4) : 185-191.
- Amaoka, K. and M. Toyoshima (1981). A new ogcocephalid fish, *Dibranchus japonicus*, from Japan. Japan. J. Ichthyol., 28(2) : 115-121.
- 尼岡邦夫・仲谷一宏・新谷久男・安井達夫編 (1983a). 東北海域・北海道オホーツク海域の魚類. 日本水産資源保護協会、東京、371pp.
- 尼岡邦夫・仲谷一宏・藪 熙・山本弘敏 (1983b). 図鑑北日本の魚と海藻、北日本海洋センター、札幌、268pp.
- 針生 勤・今井義弘・三原行雄 (1990). 道東太平洋海域で採集された暖海性魚類. 釧路市立博物館紀要、(15) : 23-32.
- 疋田豊彦 (1950). 噴火湾の魚相について (I). 水試報、5 (2) : 127-139.
- 疋田豊彦 (1981). 知床半島東側水域の魚類. 北海道さけ・ますふ化場研究報告、(35) : 57-88.
- 小林喜雄・池田 正 (1962). 北海道尻岸内付近の魚類相. 北海道学芸大学生物教育尻岸内臨海実験所 (尻岸内臨海実験所付近の生物相第4冊)、1-21.
- 小林喜雄・桜井基博 (1967). 北海道釧路沖で採集された稀種テングギンザメ *Rhinochimaera pacifica* (Mitsukuri) について. 北大水産報、58(3) : 197-200.
- 丸山 潔 (1958). 東北地方深海産魚類の稀種III. ハダカエソ科 (Paralepididae) の1稀種. 魚類学雑誌、7 (2/4) : 67-70.
- 丸山 潔 (1970). 東北地方深海産魚類. 東北水研報、(30) : 43-66.
- 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝弥・吉野哲夫 (1984). 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会、東京、448pp.
- 松原喜代松 (1955). 魚類の形態と検索. I—III. 石崎書店、東京、1,605pp.
- 岡田 雋・小林喜雄 (1968). 北洋魚類図説. 北洋鮭鱒資源調査研究会・日本水産資源保護協会、東京、179pp.
- 尾身東美・阿部晃治 (1969). 釧路市立郷土博物館魚類標本解説. 釧路市立郷土博物館報、(200) : 19-29.
- Parr, A (1945). Barbourisidae, a new family of deep sea fishes. Copeia, 1945(3) : 127-129.
- Rofen, R. R. (1959). The whale-fishes, families Cetomimidae, Barbourisidae and Rondeletiidae (order Cetunculi). Galathea Report 1 : 255-260.
- 桜井基博・山代昭三・川嶋昭二・尾身東美・阿部晃治 (1972). 釧路のさかなと漁業. 釧路叢書、第13巻、366pp.
- 佐々木潤・吉田英雄・三原行雄・高昭 宏・佐野満広・今井義弘・依田 孝・小林 喬 (1989). 一九八八年に道東太平洋で採れためずらしい魚. 釧路水試だより、(61) : 12-20.
- Sato, S. (1937). The fauna of Akkeshi Bay. VI. Pisces. Jour. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Ser. VI. Zoo., 6 (1) : 13-34.
- 上野達治 (1971). 北海道近海産魚類目録. 北水試報、(13) : 61-102.
- Ueno, T. and K. Abe (1964). Studies on deep-water fishes from off Hokkaido and adjacent regions. III-VII. Bull. Hokkaido Reg. Fish. Res. Lab., (28) : 1-22.
- Ueno, T. and K. Abe (1966a). Studies on deep-water fishes from off Hokkaido and adjacent regions. VIII-IX. Japan. J. Ichthyol., 14(1/3) : 35-39.
- Ueno, T. and K. Abe (1966b). On rare or newly found fishes from the water of Hokkaido (II). Japan. J. Ichthyol., 13(4-6) : 229-236.
- 吉田英雄・中田 淳・上田吉幸・鳥澤 雅・今井義弘・佐野満広・鈴内孝行・山下・豊 (1985). 一九八五年道東太平洋海域に出現した珍魚. 釧路水試だより、(55) : 16-21.

図版 1

ギンザメ科 Chimaeridae

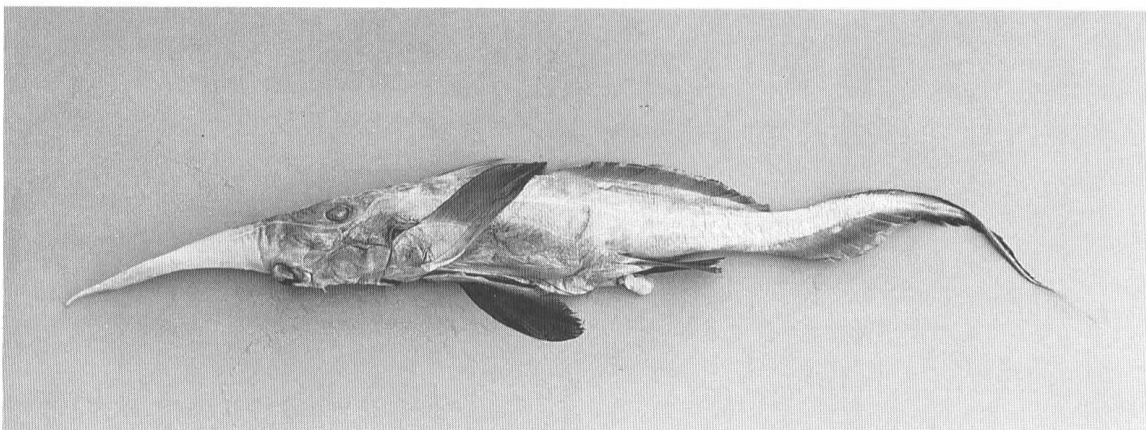
1. アカギンザメ *Hydrolagus mitsukurii* Dean



693mm TL

テングギンザメ科 Rhinochimaeridae

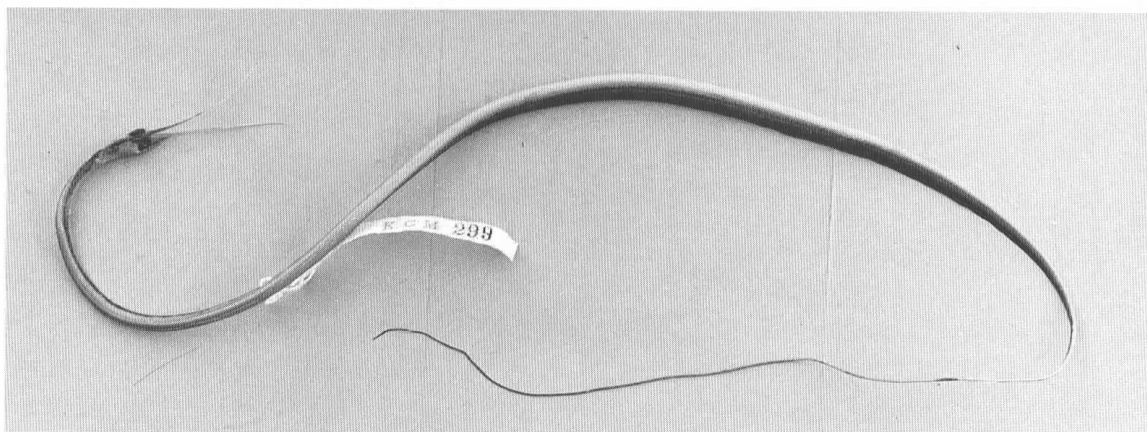
2. テングギンザメ *Rhinochimaera pacifica* (Mitsukuri)



876mm TL

シギウナギ科 Nemichthyidae

3. シギウナギ *Nemichthys scolopaceus* Richardson

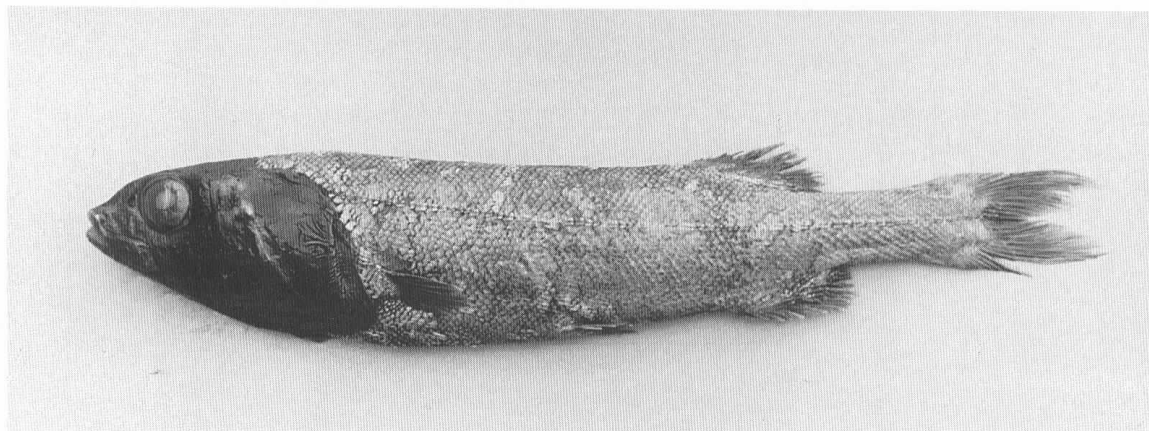


667mm TL

図版 2

セキトリイワシ科 Alepocephalidae

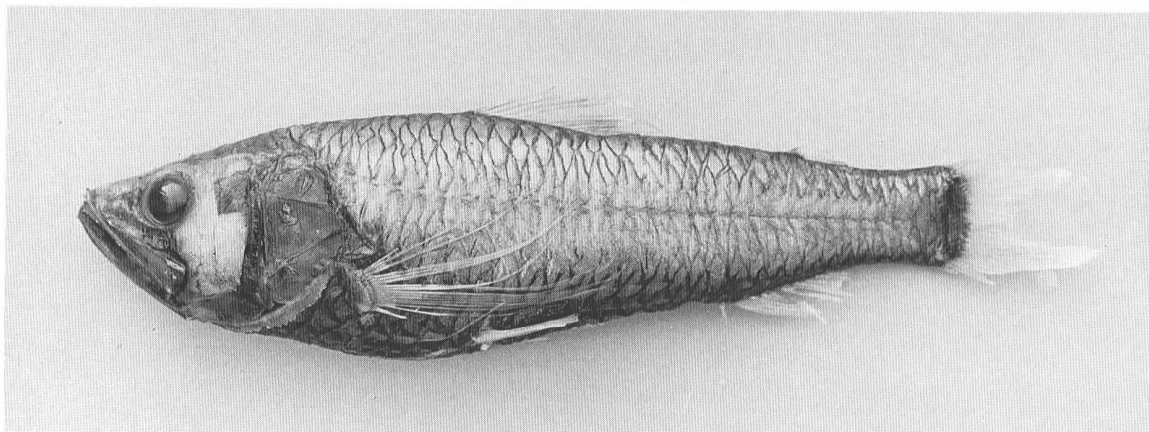
1. コンニャクイワシ *Alepocephalus umbriceps* Jordan et Thompson



482mm SL

ソトオリイワシ科 Neoscopelidae

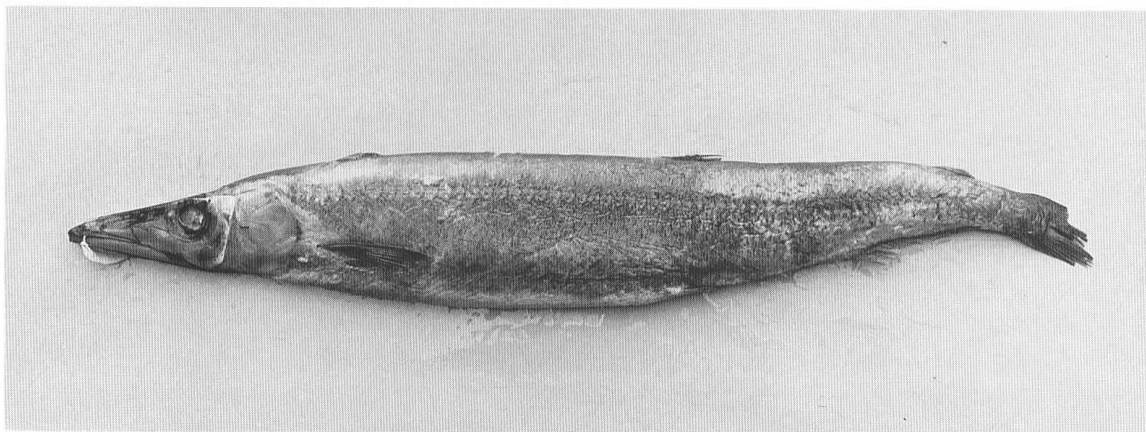
2. ソトオリイワシ *Neoscopelus macrolepidotus* Johnson



201mm SL

ハダカエソ科 Paralepididae

3. クサビウロコエソ *Paralepis atlantica atlantica* Krøyer

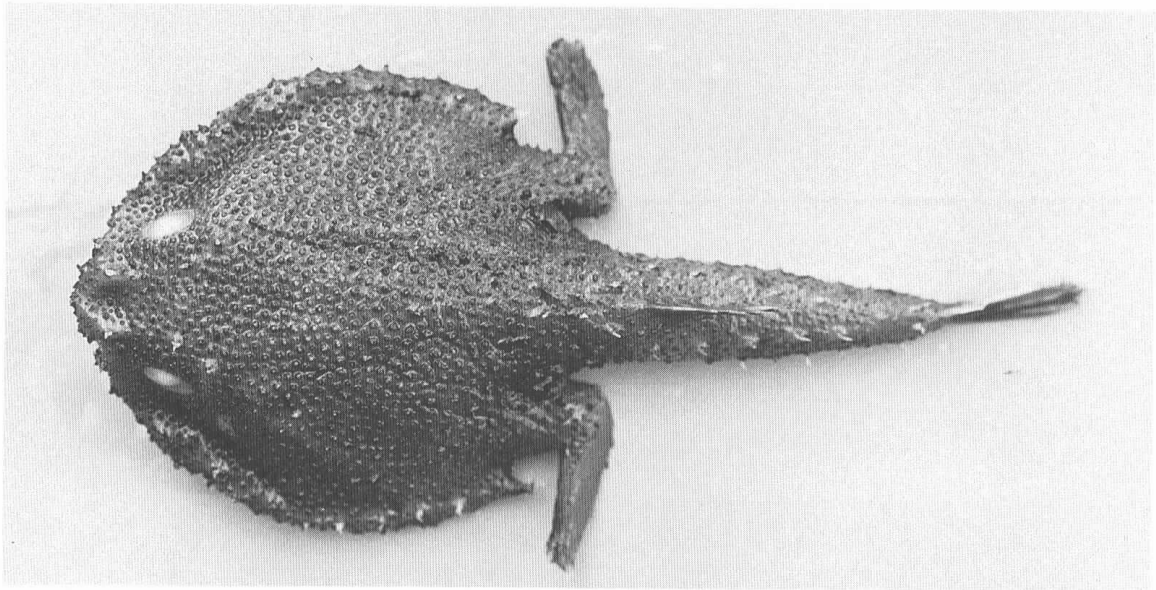


445mm SL

図版 3

アカグツ科 Ogcocephalidae

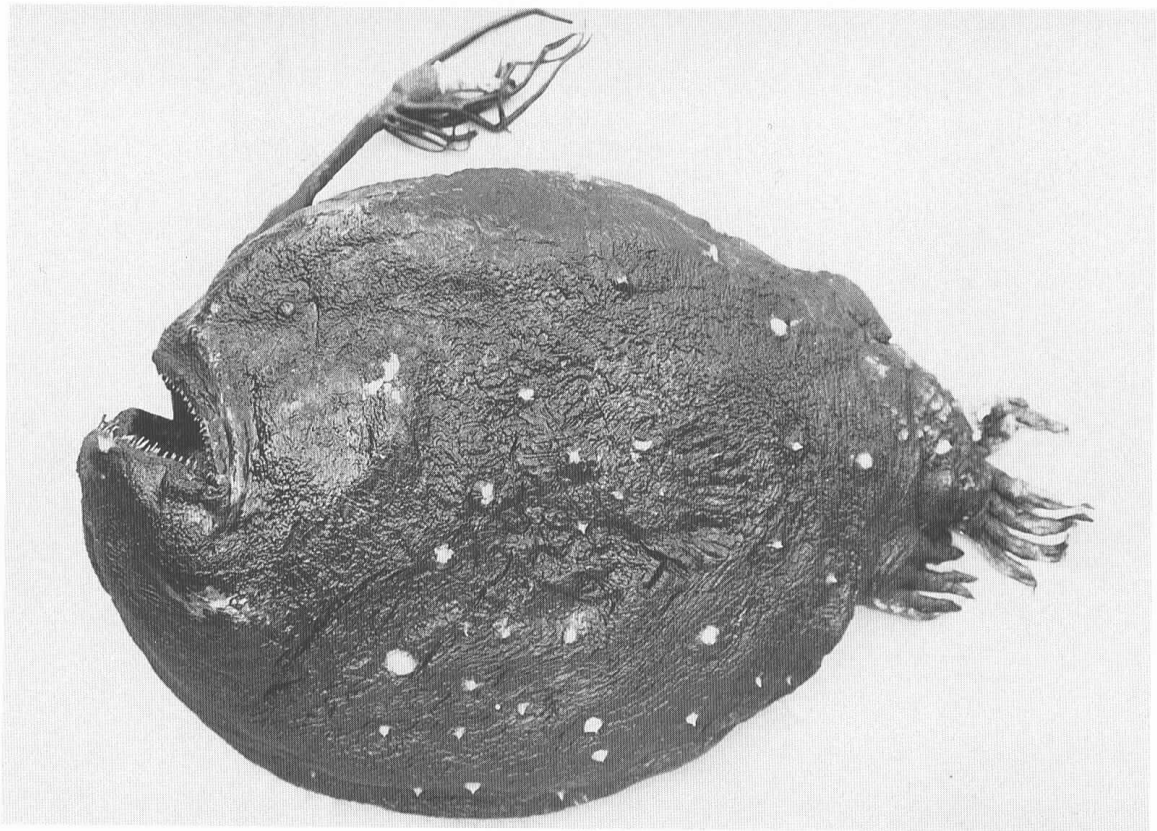
1. ソコグツ *Dibranchius japonicus* Amaoka et Toyoshima



104mm SL

チョウチンアンコウ科 Himantolophidae

2. チョウチンアンコウ *Himantolophus groenlandicus* Reinhardt

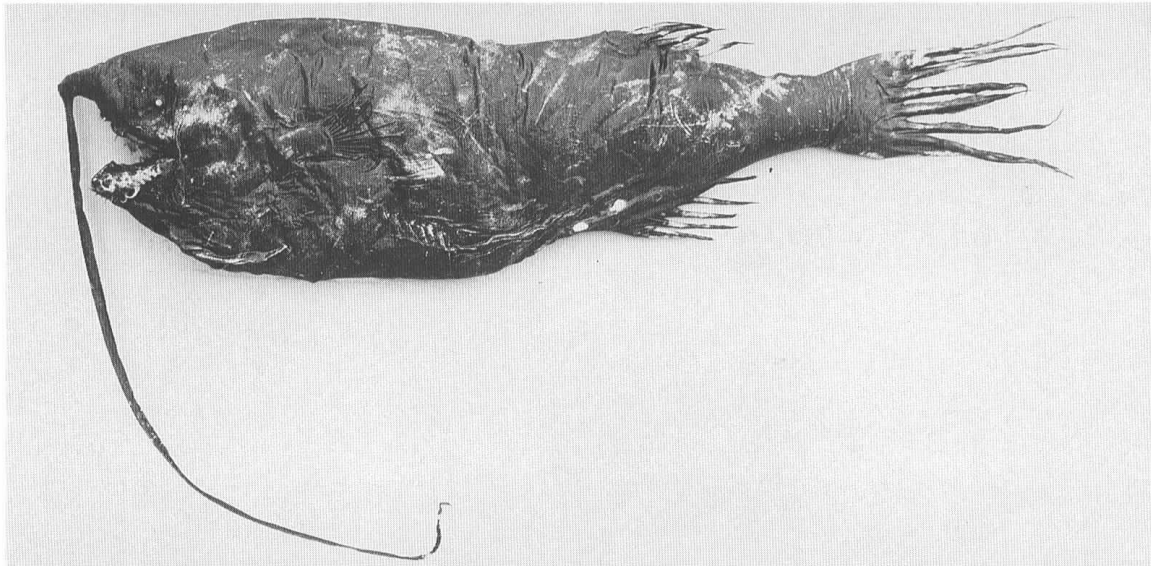


430mm SL

図版 4

シダアンコウ科 Gigantactinidae

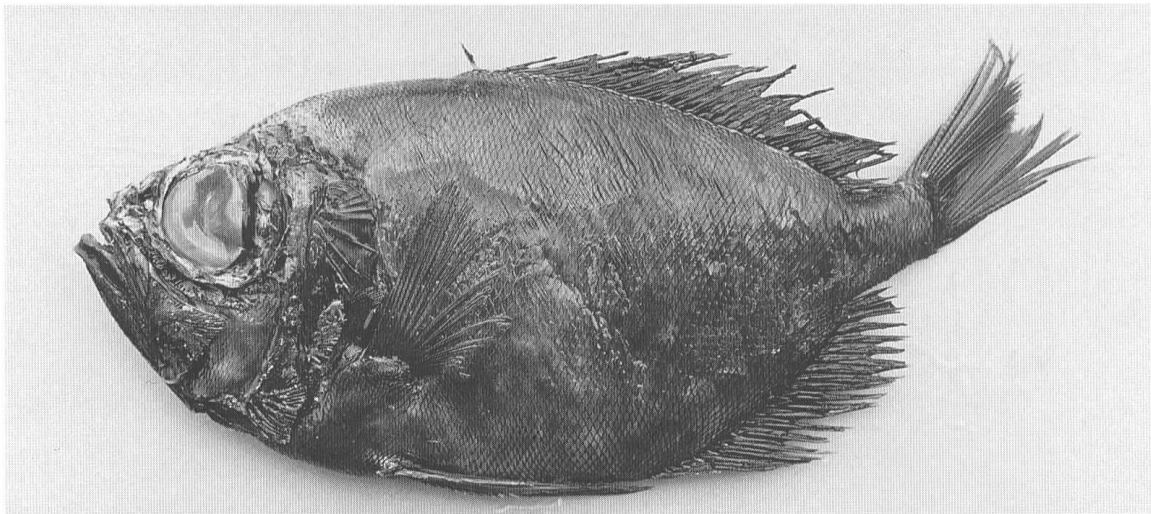
1. シダアンコウ *Gigantactis vanhoeffeni* Brauer



355mm SL

ナカムラギンメ科 Diretmidae

2. ナカムラギンメ *Diretmoides parini* Post et Quero



258mm SL

アカクジラウオダマシ科 Barbourisiidae

3. アカクジラウオダマシ *Barbourisia rufa* Parr

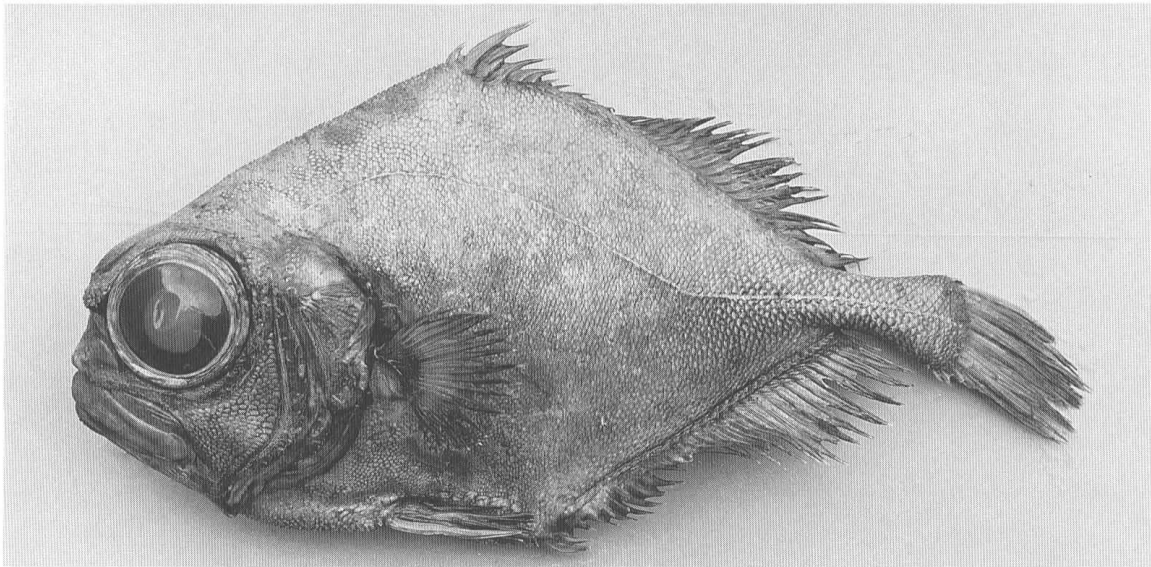


313mm SL

図版 5

マトウダイ科 Zeidae

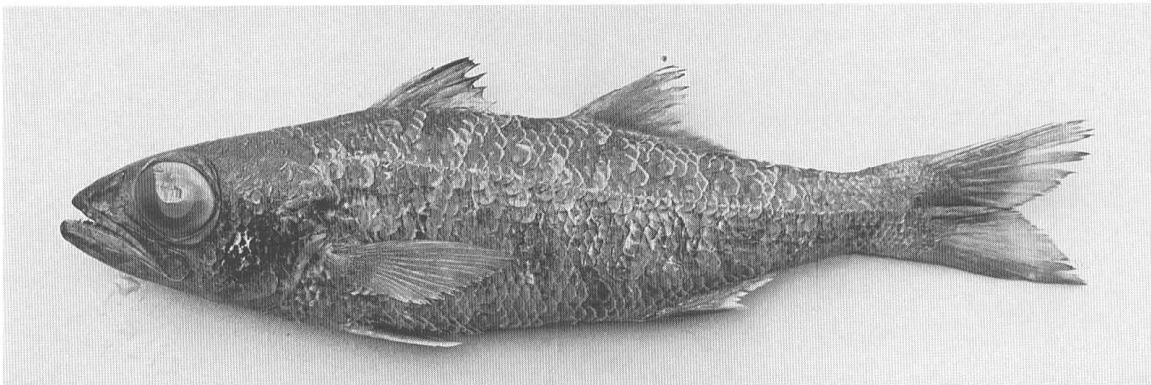
1. オオメマトウダイ *Allocttus verrucosus* (Gilchrist)



282mm SL

ムツ科 Scombropidae

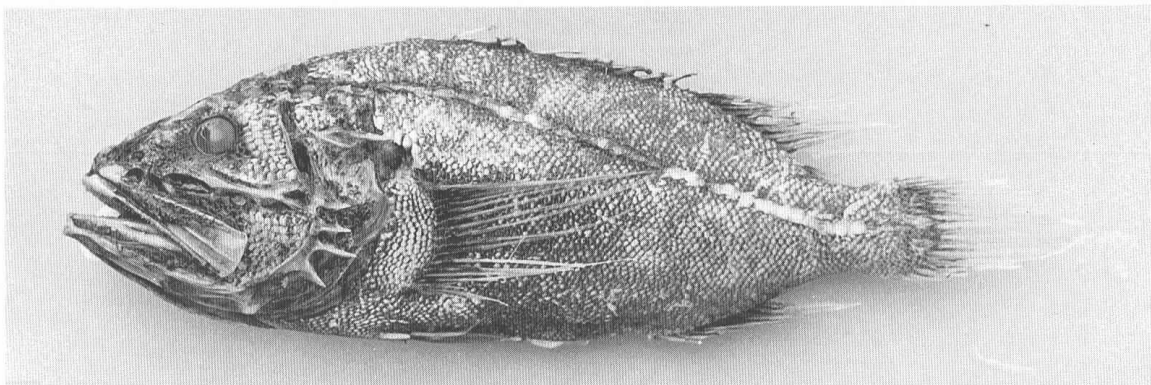
2. ムツ *Scombrops boops* (Houttuyn)



370mm SL

フサカサゴ科 Scorpaenidae

3. クロカサゴ *Ectreposebastes imus* Garman

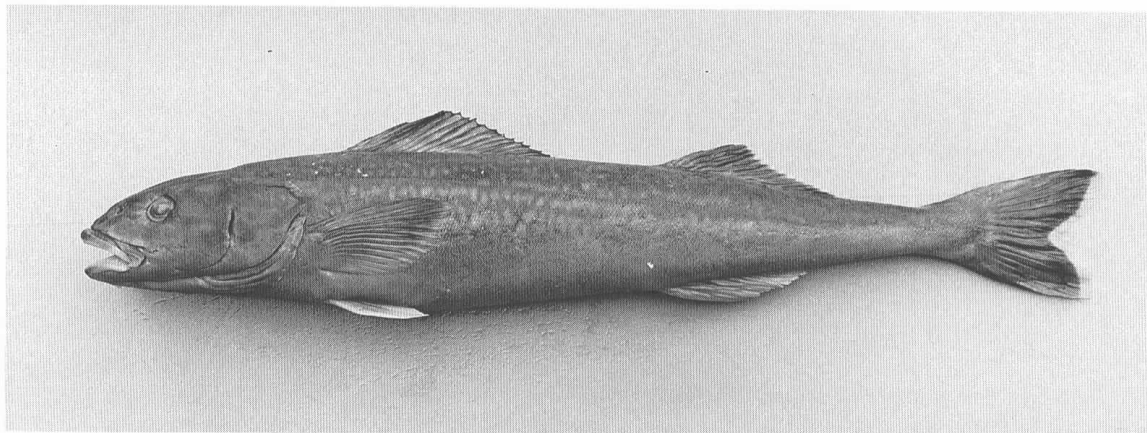


212mm SL

図版 6

ギンダラ科 Anoplopomatidae

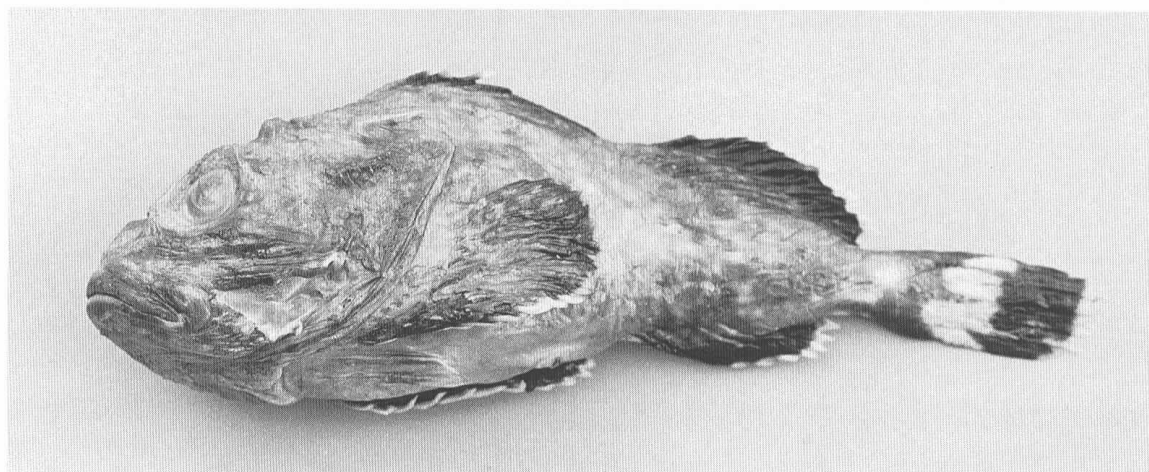
1. ギンダラ *Anoplopoma fimbria* (Pallas)



302mm SL

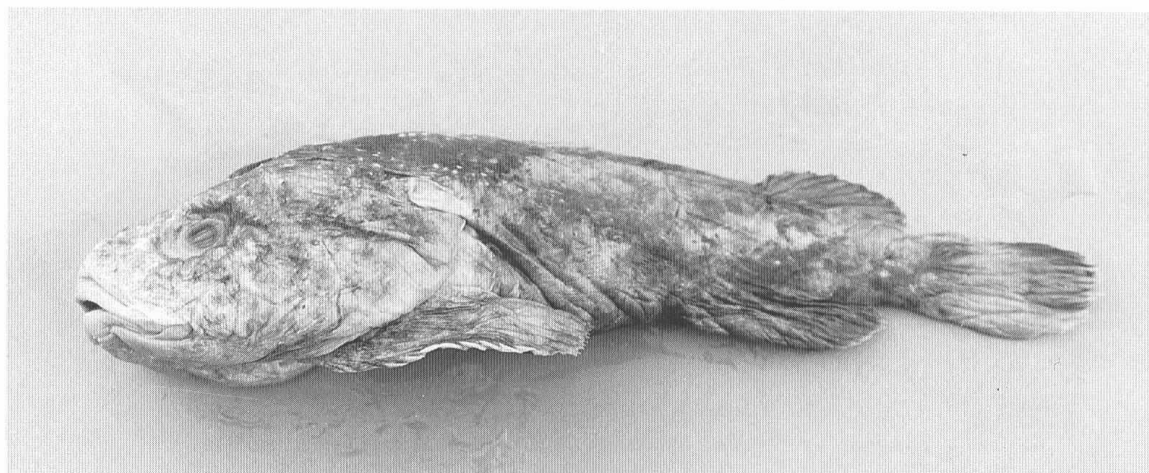
ウラナイカジカ科 Psychrolutidae

2. コブシカジカ *Malacocottus zonurus* Bean



137mm SL

3. ニュウドウカジカ *Psychrolutes phrictus* Stein et Bond



362mm SL